

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200818		
法人名	社会福祉法人 恵愛会		
事業所名	グループホーム めぐみ	ユニット名	1階
所在地	宮崎県都城市太郎坊町563-2		
自己評価作成日	平成28年6月27日	評価結果市町村受理日	平成28年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanitrue&liyosvoCd=4570200818-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に組み込んでいる「家庭的な雰囲気の中で、笑顔のたえない」を目標に、日々の生活を元気に楽しく過ごして頂けるよう支援しています。また、理念とは別に確認事項を復唱し、利用者本位のサービスが提供できるよう努めています。生活の中で個々での役割を持って頂き、メリハリのある生活の提供・個別での機能訓練等に積極的に取り組んでいます。行事に関しても、毎月「歌唱教室」「ダンベル体操」「書道教室」を実施。年間行事では「花見」「ちまき作り」「ソーメン流し」「納涼祭」「秋の収穫祭」「敬老会」「クリスマス・忘年会」「餅つき」とイベントを開催。併設の特養ホーム・デイサービス・ケアハウス等との交流も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念の下、ユニットごとに独自の理念を掲げ、処遇会議の場で唱和し、確認を行い、日々の支援に取り組んでいる。地域の小・中学生の福祉体験の訪問や保育園児の神輿訪問・ボランティアによる定期的な交流を通じて、利用者と地域との交流を図っている。職員は、利用者の得意なことやできることを一緒に手伝ってもらい、利用者の持っている能力を維持できるように支援している。経営母体が病院であるため、日常的に健康管理がなされ、急変時も含めて適切な医療が即座に受けられる体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、毎朝唱和・確認を行い、ケアを行っています。		ユニットごとに独自の理念を掲げており、毎日処遇会議時に唱和・確認を行い、日々支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の行事「唱歌教室」「ダンベル体操」「書道教室」の他、地元の六月灯(夏祭り)に参加し、交流を図っています。		オレンジカフェ(認知症カフェ)に出向いたり、保育園・小・中学校の福祉体験教室の受け入れや六月灯への参加など、地域の社会資源を活用して、地域の人と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症についての勉強会、自施設での生活等を取り上げ、地域での暮らしについて話し合い等を行っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、委員の方達とは率直な意見交換を行っています。委員からの意見は地域の方からの意見として職員会議・処遇会を通してサービスの質の向上に活かしています。		会議では、ホームの運営状況や活動内容・外部評価の受審結果を報告したり、家族や知見を有する者、行政担当者からのアドバイスなどもあり、ホームの運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度相談、助言、指導を頂きながら、課題解決を目指した取り組みを行っています。		利用者の状況を伝え助言を受けるなど、協力関係を築いており、支援の改善に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室の施錠、身体拘束は行っていない。定期的に勉強会を行い、身体拘束の及ぼす弊害について理解を深めている。		利用者の行動を制限しないよう、職員が寄り添う支援に努めている。利用者の離脱願望が強い時には職員が同行し、一緒に散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、虐待防止に努めている。また、入居者の状態には常に注意を払っている。			

自己	外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、理解・活用に取り組んでいきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、納得・ご理解して頂いている。改定時についても、その都度、書面・説明を行い、ご理解、同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声掛け、気軽に意見を言える雰囲気作りを努めている。意見については職員間で共有し、運営に反映している。		利用者や家族が意見・要望を表しやすいよう、普段からのコミュニケーションを心掛けている。運営推進会議や家族の来訪時に利用者の生活状況話し、意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議の他、毎日の処遇会、面談を行い、職員の意見を聴き、反映させている。		処遇会議を通して職員から意見を聞いている。これまでの利用者の支援や行事(外出)について意見や提案があり、職員間で共有し、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り職場環境の改善に努めている。また、職員のモチベーション維持・向上を図る為、密にコミュニケーション・面談を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修・職員会議時の勉強会の他、外部への研修にも積極的に参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入しており、定期的な勉強会に参加し、意見交換・交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族から十分話を聴き、信頼関係を築いた上で、安心して入居できるよう配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分話を聴き、話し合いを行い、信頼関係を築けるよう配慮している。本人・家族の意向はプランに反映させている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合い(相談)の中でニーズを見極め、必要としているサービス提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で職員と入居者が物事に一緒に取り組む姿勢、時間を大切にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出・外泊等いつでも出来る環境を作り、家族との繋がりを大切にしている。また、苑外活動や行事等への参加の声掛けも積極的に行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に本人・家族に馴染みの場所を聴き、出向いたりしている。地域の夏祭りには毎年参加している。	車いす利用者も、なじみの公園や花見遠足、地域の夏祭りにリフト車で出掛けるなど、思いを大切にしてきたものとの関係継続に努めている。孫の結婚式に参列した利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係把握に日々努め、トラブル防止を図り、入居者同士の時間を大切にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談・支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位を念頭に置き、本人の意思を尊重した考え方をを行うよう努めている。		大工の棟梁であった利用者に、昔取った杵柄を發揮する機会を設けるなど、利用者が興味のあることを聞き取り、一緒に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集の他、入所後も本人・家族から情報収集を行い、サービスの質の向上に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、毎朝の処遇会で一人ひとりの状態を確認、情報の共有を図っている。また、個々の申し送りノートを作成しており、状態把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の他、心身の状態の変化や要望のあった際はその都度見直しを行っている。		利用者・家族のニーズを踏まえ、担当職員・協力医の意見を反映し、3か月ごとに介護計画の見直しをしている。利用者の心身の状態や家族等の要望に変化が生じた場合には、随時介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人ひとりの記録を記入し、職員間で情報の共有を図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々の状態・ニーズに応じ、柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り、入居者個々に応じた地域資源の活用に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居者・家族の意向で決定して頂いている。また、他医療機関についても受診できる体制となっている。	受診は、本人及び家族の要望を尊重して行っており、家族付き添いの下、受診している。状況によっては職員が付き添い、身体状況を説明し、そこで得た情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医・訪問看護事業所の看護師と密に連絡・相談を行い、連携が図れている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とご家族の橋渡しを行い、家族に代わって医療機関と密に連絡をとり、関係作り・ケアの方針を話し合い、早期退院に向け連携を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・医療機関と連携し、ケアの方針を決め、チームとして支援している。	重度化や終末期のあり方について、利用開始の早い段階で本人・家族と話し合い、関係者で方針を共有している。重度化や終末期は主治医・協力医・訪問看護師と連携し、チーム支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力が身に付くよう定期的に研修等を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の他、GH単独での防災についての勉強会を行っている(消火器の使用方法・設置場所)。避難経路図も見やすい場所に掲示。年に1回は地域の方にも訓練に参加して頂いている。	年1回消防署指導の下、地域住民も参加し、夜間想定災害訓練を実施している。併設する関連施設も含めて、定期的に独自の訓練もしている。消火器や避難経路・食料・水の備蓄も整備しており、携行品等の把握もなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	確認事項でも載せている「人生の先輩」という尊敬の気持ちを常に持ち、言葉かけを行っている。また、プライバシー保護にも努めている。		職員は、年長者としての尊敬の念を持ち、利用者の行動や状況に合わせた言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々の思いを尊重し、能力に応じた支援をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で利用者の方達を注意深く観察し、個々のペースに合わせた支援を提供するよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じた服装、また、季節に応じた服装の準備を行い、本人に決定して頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日おやつ時間は一緒にお茶を飲み、毎週一回入居者の方と一緒に昼食作りを行っている。天候が良い日は苑庭にて食事会を実施。配膳、下膳は出来る方に関してはご自分でして頂いている。		食事を1日の大切な活動として捉え、昔取った杵柄の能力を発揮する場として作業の一部分を共に行っている。また、同じ料理と一緒に食べ、食への関心を引き出し、食事が楽しみなものになるよう工夫し支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量・水分摂取量をチェックし、把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員口腔ケアを実施。出来る方はご自分でして頂いている。口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を作成しており、パターンの把握に努めている。日中はトイレでの排泄に努めている。		一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄自立の支援につなげている。紙パンツやパッドも利用者に合わせて使い分けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分補給・腹部マッサージを行い、便秘予防に努めている。また、医療機関と相談し、下剤の調整も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日・時間帯は決めているが、希望時は可能な限り個々の意思を尊重し、応じている。介護度が高い方も併設の特養の機械浴を使用し、入浴して頂いている。		基本的には週2回であるが、職員配置を工夫することで、利用者の入浴日や時間帯の希望を実現しており、利用者本位の暮らしとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の状態に応じて柔軟に対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々のお薬手帳はいつでも見れる状態にしてある。服薬を行う際は声だし確認を行い、誤薬防止に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存機能を活かし、役割を持って頂く事で、メリハリのある生活を送って頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族の意向を聴き、外出支援に取り組んでいる。		庭園のオクラの手入れや収穫など、日々の外出やくまそ公園・山之口のあじさい公園・山田のかかし見物や地域の行事への参加など、楽しみを兼ねた外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	めぐみ 1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は困難な方がほとんどであるが、外出時は本人にお金を払って頂く機会を作っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられる状態である。希望時以外でも、職員が家族へ電話した際は電話口で話す機会を設けている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境・雰囲気作りに配慮し、さりげなく季節感のある装飾品等を取り入れている。	共用空間は家庭的な雰囲気づくりを心掛け、季節感を取り入れた飾りつけがなされている。また、思い出の写真や利用者の作品を掲示するなど、居場所づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー・テーブル・畳部屋を設置しており、入居者の方達が自由に過ごせるよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の馴染みの物(ソファー等)を設置し、居心地良く生活できるよう工夫している。	居室には、家族の協力を得て本人が以前から使い慣れ親しんだ家具の調度品を持ち込んでもらい、自宅と違和感のない部屋づくりに努め、利用者が落ち着いて穏やかに暮らせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内板や居室にネームプレート(目印)を設置し、出来る限り自立した生活が送れるよう工夫している。			